

平成29年度

**全国学力・学習状況調査の  
結果について**



平成29年12月  
海老名市立今泉小学校

## 目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



## 資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。  
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

### 【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

### 【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

### 【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

### 【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

### 【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校

### 【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

# 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

## ◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
  - ・ 中学校第3学年

## ◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

### 【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

### 【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

## ◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は  
こちらから



## 国語に関する調査結果

### 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

#### 《優れている所》

- 俳句の読み取りの問題では、話し合いの様子から、俳句の情景や作者の思いを捉えることができます。
- お礼の手紙について、書かれている内容の説明として、適切なものを選択することができます。

#### 《努力を要する所》

- ことわざの使い方の例として、適切なものを選択する問題の正答率が低いです。
- 日頃よく使う漢字の読み書きの正答率は高いものの、あまり使わない漢字の正答率が低いです。  
(置く79.4%、指示94.4%、対象34.6%)

### 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

#### 《優れている所》

- 物語の登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、当てはまる言葉として適切なものを選択することができます。
- 選択式の問題は無解答率が低く、正答率が高い傾向にあります。全体的に、選択肢の中から答えを選ぶ解答の仕方に慣れているといえます。

#### 《努力を要する所》

- 目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く問題の正答率が低いです。
- 文章と問題を関係づけて、いくつかの条件を満たしながら自分の考えを書く問題の正答率が低いです。

### これまでの取組から

- 漢字の読み書きについては、学校だけでなく宿題等でも練習するようにし、学年の積み重ねを重視してきました。
- 読み聞かせや朝読書等の読書活動を通して、物語や他のジャンルの本に親しむ機会を作ってきました。

### 今後の具体的な取組について

- 自分の考えをしっかりと持ち、それを言葉や文字で表現する学習を重視していきます。併せて、ノート指導の充実も図っていきます。



# 算数に関する調査結果

## 算数 A

(主として「知識」に関する問題)

### 《優れている所》

- 小数と整数の加法では、位を正しくそろえて計算することができます。
- 資料を二つの観点から2次元表に分類整理することができます。

### 《努力を要する所》

- $6+0.5\times 2$ のような加法と乗法の混合した計算で、乗法を先に計算せず、 $6+0.5$ から計算している児童が1/4以上をしめています。
- $5\div 9$ の商を分数で表す問題では、商を小数で表そうとしたり、小数で表した後に分数にしようとしている児童が17.7%います。
- を使って式に表す問題では、 $\square\div 10=5$ を、 $10\div \square=5$ や $\square\times 5=10$ のように答えた児童が約1/4おり、問題場面の数量関係を的確にとらえ文脈通りに式に表すことに課題がみられます。

## 算数 B

(主として「活用」に関する問題)

### 《優れている所》

- 問題で示された考え方の例に沿って、出題された課題に多くの児童が正しく答えることができます。

### 《努力を要する所》

- 「式を書きましょう。また、答えも書きましょう。」という設問の正答率が、全国や県の平均と比べて、約15ポイント低いです。誤答のうち、式と答えのどちらか一方しか記入していない児童が10%以上いることから、設問を理解する力に課題があると考えられます。
- 全11問のうち、8問で無解答率が全国や県平均より高いです。最後まで粘り強く取り組もうとする態度に課題があると考えられます。

## これまでの取組から

- 低学年での、ブロック等具体物や図を使った位についての指導により、位についての理解が定着しています。
- 課題に対する友達の考えや教科書の例に示された解決方法を理解させ、類題に取り組ませています。

## 今後の具体的な取組について

- 基礎的基本的な事項の学習においても、図や数直線などを使って考える場を設定し、実感的に理解できるように指導していきます。
- 児童の学習に向かう意欲を高め、一つの課題に対しても多様な考え方や算数的な表現方法に数多く触れさせるための指導の在り方を考えていきます。



## 児童質問紙の結果より

### 学習について

#### 《よかった所》

- 読書が好きだと感じている児童が多いです。  
（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が、本校76.6%、全国74.3%）
- 家庭で、授業の復習に取り組んでいる児童の割合がやや高いです。  
（「している」「どちらかといえばしている」が、本校57%、全国54%）

#### 《課題と思われる所》

- 友達の前で、自分の考えや意見を発表することが得意な児童の割合が低いです。  
（「当てはまる」「やや当てはまる」が、本校48.6%、全国52.2%）

### 生活について

#### 《よかった所》

- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人との約束があるという児童が多いです。また、その約束を守っている児童が多いです。  
（「きちんと守っている」が、本校32.7%、全国30.9%）
- 朝食を毎日食べている児童が84.1%と多いです。

#### 《課題と思われる所》

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問で、「どちらかといえば当てはまらない、当てはまらない」と答えた児童の割合が11.2%です。

### これまでの取組から

- 読書が習慣化するように、朝読書や、図書ボランティアさんによる読み聞かせの活動に取り組んできました。
- ケータイ安全教室など、情報モラルに関する指導機会を増やし、相手の立場を考えた使い方について指導してきました。

### 今後の具体的な取組について

- ペアや少人数グループでの話し合い活動を充実させることで、子どもたちが自信をもって発表に臨める環境づくりを行います。
- 子どもたちがお互いを思いやり、尊重できるよう、生命や人権を大切にする指導や道徳教育の充実を図っていきます。



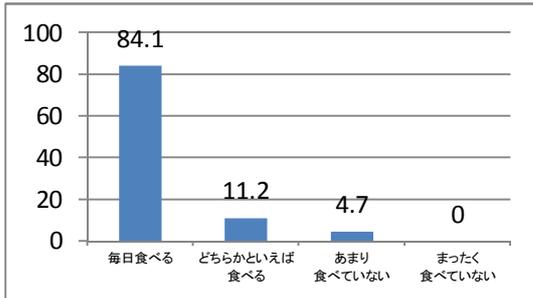
# ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

## 1 朝ごはんを毎日食べて、元気に過ごしましょう。

毎日、朝ご飯を食べて登校する児童の割合が高いです。これからも継続しましょう。

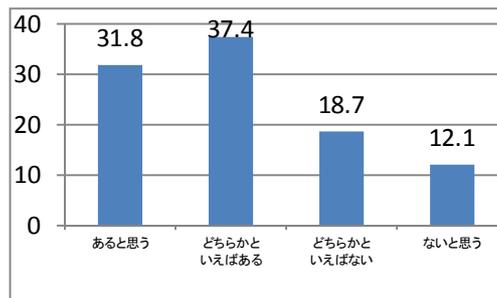
朝食を毎日食べていますか。



## 2 子どもの良さを認めて褒めてあげましょう。

褒められることで自己肯定感が高まり、自分に自信を持ち積極性が培われます。

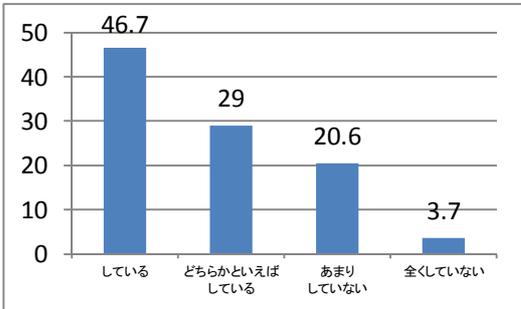
自分には、よいところがあると思いますか。



## 3 学校の様子を話題に、家族の会話を増やしましょう。

学校の様子を知ることができるので、積極的に会話をしましょう。

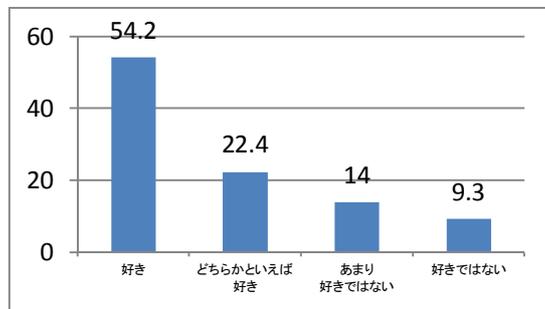
家の人と学校での出来事について話をしますか。



## 4 読書で本に親しむ環境をつくりましょう。

読書が好きだと感じている児童が多いです。

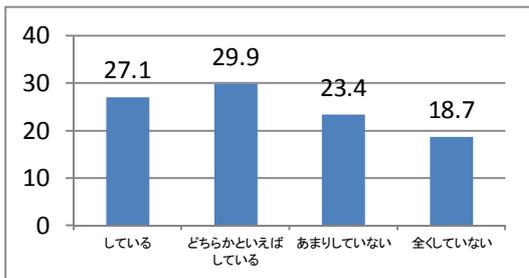
読書は好きですか。



## 5 家庭学習の習慣を継続しましょう。

授業の復習をすることで、学びが定着し学力向上に繋がります。これからも継続しましょう。

家で学校の授業の復習をしていますか。



## 6 いじめは絶対にいけないことを伝えましょう。

友達との関わりなどについて話をする中で、いじめは絶対にいけないことだということを伝えましょう。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

